

長野県立歴史館たより

2015年 夏号 vol.83

特集 戦後70年企画

長野県民の1945

——疎開・動員体験と上原良司——



戦後70年企画

7月25日(土)～9月15日(火)

長野県民の1945 — 動員・疎開体験と上原良司 —

先の大戦が終結してから70年が経とうとしています。

戦後70年にあたり、長野県民の1945年（昭和20）に焦点を当てた展示を企画しました。

展示は、長野市、上田市など県内各地への空襲、県民の兵士や「従軍看護婦」としての動員、特攻隊員として戦死した上原良司（現安曇野市出身）の平和へのメッセージ、軍機関や工場、学童や多くの市民の県内への疎開、という四つのテーマで構成しました。

また、先の大戦を記憶している人たちも年々減りつつある今、平和を守り、戦争の惨禍を二度と繰り返さないためには、いかに後世に戦争の記憶を伝えていくかが重要です。

企画展にあわせて、戦争を体験された皆さんから当時の様子をお話いただく講座を開くとともに、県内の戦争体験証言集を展示します。

ここでは展示のいくつかを紹介します。

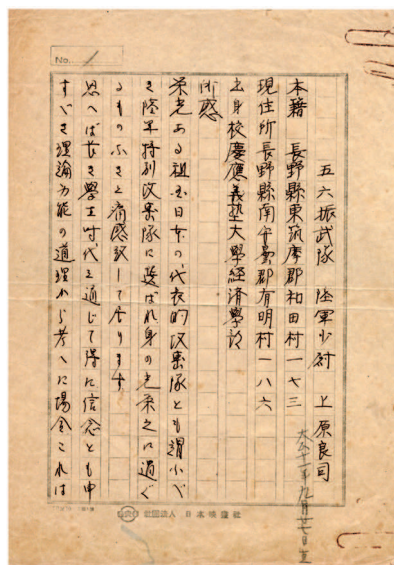


日赤看護員の制服（日本赤十字社長野県支部蔵）

戦場に赴いた女性たち～従軍看護婦～

出征したのは男性ばかりではありません。戦場を経験した女性たちもいました。「従軍看護婦」と呼ばれた日赤看護員です。彼女たちの派遣先は、国内の陸軍病院はもちろん、戦場付近の野戦病院にも及びました。日赤看護員の召集や活動を、日本赤十字社長野県支部に残る、軍人の召集令状（赤紙）にあたる「看護員召集状」、派遣に際して着用した「日赤職員上着」などの資料から紹介します。

今も生き続ける上原良司の言葉



上原良司「所感」昭和20年5月10日（個人蔵）

「空の特攻隊のパイロットは一器械に過ぎぬと一友人が言った事は確かです。（中略）一器械である吾人は何も言う権利もありませんが、ただ、願わくば愛する日本を偉大ならしめられん事を、国民の方々をお願いするのみです。」

この「所感」は、5月11日に陸軍特別攻撃隊員として鹿児島県知覧飛行場から出撃し戦死した上原良司が、その前夜に「偽らぬ心境」をつづったものです。

「所感」をはじめとした上原良司の手記から、彼が伝えたかった思いや願いが伝わってきます。

したい 肢体不自由の子どもの命を守った

長野県は3万人以上の子どもたちの疎開を受け入れました。しかし、当時全国唯一の肢体不自由の子どもたちが学んでいた東京都光明国民学校は、疎開先が決まりませんでした。校長が東奔西走した結果、たどり着いた先が、上山田ホテル（千曲市）でした。光明学校の疎開や地元の人々との交流の写真、学校が保護者に送った「学寮通信」などを展示します。



光明学校の児童（旧上山田町）（個人蔵）

証言「戦争体験を語る」講座 戦争体験証言集収集

企画展開催中に、戦争体験者をお招きし語っていただく講座を開催します。テーマは次の5点です。

- ・長野空襲
- ・兵士
- ・満洲移民
- ・勤労働員
- ・学童疎開

長野市を襲った空襲、戦地に赴いた兵士、満洲開拓民・義勇隊員、学徒動員で兵器工場
で働いた女学生、疎開児童と遊んだ地元の子どもたちの証言など、多彩な内容の講座を企画しました。多くの皆様にご聴講いただきたいと思います。



画しました。多くの皆様にご聴講いただきたいと思います。

また、県内市町村公民館等が編さんした戦争体験証言記録集を展示しますので、ご覧下さい。

開催期間

平成27年7月25日(土)～9月15日(火) 45日間

(休館日 9月14日を除く開催期間中の月曜日)

関連行事

- ① 講演会 7月25日(土) 13時30分～15時 講堂
演題「長野県と長野県民の1945」
講師 上條 宏之氏（長野県短期大学学長）
- ② 証言「戦争体験を語る」
8月8日(土)・22日(土)、9月5日(土)・12日(土)
13時30分～15時 講堂
- ③ 講座 8月15日(土) 13時30分～15時 講堂
「戦争遺跡に見る祈りの形 ～戦没者への祈り～」
原 明芳（当館総合情報課長）
- ④ 展示解説 講演会、証言、講座の終了後 30分間程度
企画展示室

————— 詳細は後日ホームページでお確かめください —————

長野県の遺跡発掘2015

会期・場所 平成27年 5月30日(土)～7月12日(日) 長野県立歴史館
7月25日(土)～8月23日(日) 長野県伊那文化会館
9月19日(土)～10月18日(日) 安曇野市豊科郷土博物館

今回の企画展は、長野県埋蔵文化財センターと県内市町村教育委員会が、長野県内で主に平成26年度に発掘調査を実施した遺跡や、報告書を刊行した遺跡の紹介に加えて、「いのり」をテーマにした展示もおこなっています。

長野県埋蔵文化財センターの調査成果から

長野市浅川扇状地遺跡群あさかわせんじょうちの発掘では、昨年の速報展で話題となった口縁が二段となる珍しい壺が、弥生時代最終末の方形周溝墓から新たにみつかるなどの成果がありました。さらに、今年注目される資料は、下の写真の鴨徳利かもどっくりです。これはお酒を入れたもので、幕末に埋まったとみられる穴から、燈明具などの日用品とともにみつかりました。富山県でつくられたもので、県内では数少ない発見です。昔からの北陸地方との結びつきを語る資料です。



鴨徳利 (長野県埋蔵文化財センター提供)

県内市町村教育委員会の調査成果から

上伊那郡宮田村の中越遺跡なこしは、縄文時代前期から中期、さらに晩期まで長期間にわたって続いた大規模な集落遺跡です。今回調査がおこなわれた

縄文時代中期の住居跡から、小型の土器が中に入れた埋甕うめがめがみつかりました。小型の土器には人面と思われる表現がされています。

埋甕の中にいれた土器は、母親のおなかの中の子供を想像させます。この土器には、当時の人々の子への強い願いがこめられているのかもしれませんが。



人面付小型土器 (宮田村教育委員会提供)

今年は新たな取り組みとして、従来実施している伊那市の伊那文化会館に加え、安曇野市の豊科郷土博物館でも巡回展を開催いたします。長野県の歴史を知る上で重要な県内各地における最新の発掘成果を、より多くの県民の皆様にご覧いただければと思います。

関連行事

●伊那会場

7月25日(土) 遺跡報告会

8月22日(土) 伊那文こどもまつり

●安曇野会場

9月20日(日) 石川日出志氏講演会

10月3日(土) 遺跡報告会

※詳細はホームページをご覧ください、または直接当館までお問い合わせください。

イノシシで飾る

～縄文人のいのりとファッション感覚～



この顔、「長野県の遺跡発掘2015」ポスターでも主役を張り、その印象深さでご記憶の方も多いのではないのでしょうか(写真上)。小海町^{なかほら}中原遺跡では、このようなイノシシ顔の飾りが付いた土器が大量に出土しました。伊那会場、安曇野会場(P3 関連行事参照)でもお出迎えする予定です。歴史館で見逃した方は、ぜひ、会いに来てください。

さて、不思議なことに、イノシシ顔付きの土器は縄文時代前期後半(約6千年前)に、群馬県西部地域を中心とした限られた地域で集中的に作られ、その後、^{すた}廃れていきます。今で言う期間限定、地域限定品だっただけに、交易に際してこの土器を持ち込めば、群馬県西部周辺から来た人だとわかり、稀少な贈答品、交換品になったと思われます。

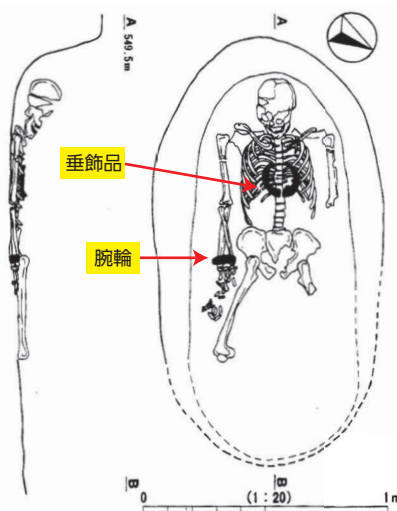
集団を象徴する飾りだったことは確かでしょうが、では、なぜイノシシなのでしょう。集団の始祖と結びつく神話があったのか。あるいは、豊猟への願いだったのか。多産にあやかりたかったのか。まさか、単に猪鍋が好きだったから? イノシシの造形に込められた「縄文人のいのり」の解明は、今後も課題の一つです。

ところで、縄文時代には、土器装飾やイノシシ形土製品だけでなく、本物のイノシシ牙(犬歯)や骨の加工品で、身体を飾る場合もありました。

安曇野市北村遺跡では、縄文時代中・後期の埋葬人骨190体余の内、8体がイノシシ牙製腕輪や

垂飾品、骨製かんざしをつけていました(右表)。

腕輪を持つ二人は墓域西側で隣りあう成人男性で、近くにはイノシシ製装飾品を持つ女性や子どもがみられます。腕輪



北村遺跡 SH1172基
埋葬人骨とイノシシ製飾りの位置

を持つもう一人は南側の壮年男性でした。

イノシシは、御馳走であると同時に^{どうもう}狩猛な敵であり、狩りでは大きな危険を伴う場合もあったことでしょう。仕留めた大物の牙を身につけていることは、勇敢で優秀な狩人のステータスだったのかも知れません。また、強者の武器(牙)を身につけることで、厄よけにしていたのかも知れません。

縄文人のファッション感覚では、動物の一部を身につけることで、動物やその背後にいる精霊にいのりを届けることが、最良とされたのでしょう。

当館バックヤード探検では、上図の北村縄文人と必ず会ってもらいます。この出会いが将来の考古学者、人類学者の誕生につながることを、それが歴史館職員の密かな祈りです。(寺内隆夫)

北村遺跡(縄文後期)墓出土イノシシ牙製装飾品

※緑色は墓域南側、黄色系は西側グループ

遺構	骨角製品		被葬者		
	遺構名	名称	装着・出土位置	埋葬姿勢ほか	性別 推定年齢
1	SH 549	イノシシ牙製品	埋土	頭蓋骨2、四肢骨の一部	男性/不明 熟年(40~50歳)/青年(20代)
2	SH 805	イノシシ牙製腕輪2/イノシシ骨製かんざし	両手首/頭部	仰臥屈葬	男性 壮年(30~40歳)
3	SH 851	イノシシ牙製装身具	胸部	屈葬(残存状況悪い)	男性 熟年(40~50歳)
4	SH 1136	牙製品	胸部	仰臥屈葬	女性 青年(20~25歳)
5	SH 1144	イノシシ骨製かんざし	頭部	仰臥屈葬	女性 熟年(45~50歳)
6	SH 1172	イノシシ牙製腕輪/イノシシ牙製垂飾	右手首/胸部	仰臥(屈葬)	男性 成人
7	SH 1193	イノシシ牙製品	左寛骨	仰臥屈葬	不明 少年(12歳前後)
8	SH 1208	イノシシ牙製腕輪	左手首	仰臥(屈葬)	男性 壮年(30~40歳)

考古資料をよむ 野尻湖黒曜石物語

長野県立歴史館には上信越自動車道建設に伴い発掘調査をした上水内郡信濃町野尻湖遺跡群の旧石器時代の石器が約7万点収蔵されています。野尻湖周辺では良質な石器の材料が採取できなかったため、何十キロも離れた産地から石材を入手していました。約90キロ離れた和田峠周辺の黒曜石原産地からどのようにして野尻湖までもたらされたのか、貫ノ木遺跡の発掘資料から探ってみることにします。

3万年前、石核で持ちこんだ

写真1は、第3地点から出土したおよそ3万年前の石核2点です。これらは数回しか石片（剥片）を剥離していない石塊（原石）の状態に近く、これからたくさんの石器となる剥片がとれる石核です。

この石核の表面を観察すると、角や高まり（稜線）上や剥離した面に磨耗や擦り傷がみられます。この傷のできた理由を推定すると、黒曜石の原石を求めて和田峠周辺まで訪れた旧石器人は、山腹や河床にある黒曜石の転石を確認しました。そこで、石器の素材として持ち帰るのに適切な原



写真1 試し割りをして持ち込まれた石核（左：長さ約12cm, 730g）



写真2 持ち込まれた石槍（左：長さ約8cm, 21g）

石を選択するために試し割りを行い、そこで選ばれた原石（剥離作業を行ったので石核に分類されます）はおそらく革袋のような入れ物に入れられて、野尻湖まで運ばれました。その道すがら、石核同志が皮袋のなかで当たり、こすれた結果が表面にみられた傷であったと考えられます。

2万年前、半完成品で持ちこんだ

写真2は、第1地点から発見された2万年前の槍先形尖頭器（石槍）の半完成品で、表裏稜線にはやはり擦り傷が認められます。石槍は製作途上で壊れるリスクが高く、豊富に材料が獲得できる原産地である程度まで加工した後に、革袋などにいれて搬出し、野尻湖で仕上げを行おうとしたと推定されます。しかしながらこの2点は仕上げの段階で欠損し、遺跡に残されたようです。

野尻湖の旧石器人は3万年前には黒曜石を原石に近い状態で入手していたようですが、2万年前になると原産地である程度加工をした石器を入手するようにと変化したようです。原石から石器へ、これらの資料は時期により黒曜石の入手形態が変化していったことを物語っています。

文献史料をよむ

近代の地図が生まれるとき



久能村(左)・梨沢村(右)

現在国土地理院が発行している5万分の一の地図（基本図）につながる地図は、明治23年（1890）にその整備が始まり、日本全国をカバーするのは大正5年（1916）でした。

しかし、わが国の明治時代前半は、^{はいはんちけん}廃藩置県、^{ちそ}地租改正、鉄道建設など新たな国づくりが進められ、それらの事業は地図を必要としました。

そのため、全国規模の地図の整備が始まる前に、日本各地で測量を実施し、地図が作成されました。当館が収蔵している約2,500点余の「長野県絵図・地図」はその足取りを訪ねることのできる史料群です。

現在、当館ではそれらの調査・分析を進めており、地図の特徴や作成された時期が少しずつ明らかになっています。

今回は、その中でも作成された時期が早い、旧佐久郡の地図59枚が一つに綴じられたものを紹介します。

綴られた地図は、名主らの署名捺印があり、方位の表示方法や村名を楕円で囲む表現方法は江戸時代の村絵図と変わりありません。しかし、曖昧ながら凡例や色使いに統一感がみられ、近代地図に近い特徴も備えています。

これらは、地図の記載や綴を入れた袋への書き込みなどから、各村で作成され、明治2年（1869）に幕府領の陣屋から尾張藩の取締役所となった御影陣屋（小諸市）へ提出されたことがわかります。^{おわり}尾張藩と新政府が信濃国内の幕府領・旗本領を管轄するために設置した伊那県が関与して、村域確定の目的で作成されたと考えられます。提出後の地図の綴りは中野県、最終的には長野県に引き継がれました。これらの地図は、近代日本で組織的に最初に作成された地図類の一つといえます。

冬季展では、「長野県の絵図・地図」のなかから、境界、地籍の確定などに重要な役割を果たした地図を取り上げて展示します。

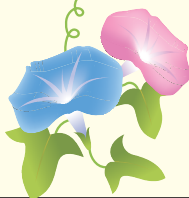


中山道 沓掛宿(左)・同 軽井澤宿(右)

INFORMATION

インフォメーション

■2015年(平成27) 5月～8月の行事予定



5月

速報展

講座・イベント

6月

休館日
1・8
15・22
29

長野県の 遺跡発掘2015

2015
5/30(土)～7/12(日)

■講演会

5/30(土) 13時30分～15時
「卓弥呼の時代から
ヤマト王権へ
～その時シナノに何が起きたか～」
講師 大塚 初重 氏
(明治大学名誉教授)

■遺跡報告会

6/6(土) 13時30分～
15時20分

■埋文体験デー

7/4(土) 10時～15時

●巡回展1

伊那文化会館
7/25(土)～8/23(日)

●巡回展2

安曇野市豊科郷土博物館
9/19(土)～10/18(日)

古文書講座

初級A 第1回 6月7日(日)
初級B 第1回 6月18日(木)
中級A 第1回 6月6日(土)
中級B 第1回 6月18日(木)
上級 第2回 6月27日(土)

考古学講座

第1回 6月20日(土)
13時30分～15時00分

歴史館セミナー

6月27日(土)
13時30分～15時00分

7月

休館日
6・13
14・21
27

古文書講座

初級A 第2回 7月5日(日)
初級B 第2回 7月16日(木)
中級A 第2回 7月4日(土)
中級B 第2回 7月16日(木)
上級 第3回 7月25日(土)

考古学講座

第2回 7月18日(土)
13時30分～15時00分

戦後70年企画

長野県民の1945

～疎開・動員体験と上原良司～

2015
7/25(土)～9/15(火)

■講演会

7/25(土) 13時30分～
「長野県と長野県民の1945」
講師 上條 宏之 氏
(長野県短期大学学長)

■戦争体験を語る

各回 13時30分～
8/8(土)「長野空襲を語る」
8/22(土)「兵士の戦場体験を語る」
9/5(土)「勤労動員を語る」
「学童疎開を語る」
9/12(土)「満洲移民を語る」

歴史館で夏休み

8月1日(土)・8月2日(日)
10時00分～15時00分

考古学講座

第3回 8月15日(土)
13時30分～15時00分

古文書講座

上級 第4回 8月22日(土)

やさしい信濃の歴史講座

上田会場 8月29日(土)
13時30分～15時00分

8月

休館日
3・10
17・24
31

表紙の写真の解説

長野県出身の特攻隊員上原良司。写真は、調布飛行場にて搭乗機である「飛燕」とともに撮影されたもの。「所感」には、「明日は自由主義者が一人この世から去って行きます。彼の後姿は淋しいですが、心中満足で一杯です。」とあり、1945年5月11日に出撃し、沖縄周辺洋上で敵艦船群に突入、戦死。享年満24歳。(数え)

行事アルバム

*** 春季企画展講演会から ***



4月18日(土)当館講堂にて春季企画展講演会を開催し、富山大学人文学部教授・鈴木景二先生から「信濃と北陸を旅した人びと」と題してご講演いただきました。善光寺信仰と地域交通の変化、参勤交代の道中日記などからみた宿場や街道の裏話など、たいへん興味深いお話でした。

*** 歴史館でこどもの日 ***



▲石のアクセサリーづくり



縄文人になろう▶

5月4日・5日と天気にも恵まれ、2日間で約400名が参加しました。バックヤード探検を楽しみ、石のアクセサリーをつくり、さらに企画展のクイズに挑戦するなど、複数のイベントを楽しんでいる子どもたちの姿が見られました。

長野県立歴史館たより 夏号 vol.83

2015年(平成27) 6月16日発行

編集・発行 長野県立歴史館

〒387-0007 千曲市歴代260-6
電話 026-274-2000(代) FAX 026-274-3996
E-mail rekishikan@pref.nagano.lg.jp
ホームページ <http://www.npmh.net/>

印刷 奥山印刷工業(株)